



(4) ステージⅣ 家庭・地域との連携

- より開かれた学校づくりと地域教育力の再生
(南国市立稲生小学校)
- 土佐町学校応援団
～地域全体で学校を支える仕組みづくり～

より開かれた学校づくりと地域教育力の再生（南国市立稲生小学校）

1 学校や地域の状況

稲生小学校は、児童数85名（平成21年7月現在）の学校である。以前から地域の方は学校に協力的であったが、平成17年度に前会長が就任する際、PTCA化を図り、地域ぐるみの活動を推進したいとの相談があり、学校・PTA承諾のもと、その年の第1回「開かれた学校づくり推進委員会」で地域の方の賛同を得て、PTCA化がスタートした。

2 取り組みのポイント

○PTAに地域を意味するコミュニティの“C”を入れたPTCA化により、更なる開かれた学校づくりと地域教育力の再生を実現することを目的に地域との連携を推進する。

3 具体的な取り組み

① 「稲生の文化が香る日」の設定

11月の最終日曜を「稲生の文化が香る日」として、午前中に小学校で「学習発表会」、午後に公民館で「ふれあい文化祭」を開催する。



② 「みんなの稲生を守り隊」の設立

児童の安全確保のため、地域安全ボランティアの方々が、下校時に自宅付近での見守り、安全旗を持つての先導や声かけ、自宅までの付き添いなどを行っている。

③ 「2分の1成人式」を地域で祝う

従来4年生が3学期の参観日に行っていたが、地域の方にも参加していただく10歳を祝う行事とした。平成20年度からは3倍、3.5倍、4倍の成人式も同時に行っている。



④ 「上履きのかかとを踏まない活動」

各家庭で自分に合った上履きを購入してもらい「かかとを踏まない活動」を実施した。小さなことでも、PTCA組織により、躰を含め子どもへの「みっともない」という気持ちを意識づけしている。

⑤ 「みのりの会」による食農体験のサポート

地区の女性グループが学校行事の田植え、稲刈り、玉葱栽培、芋掘りなどの食農体験をサポートしている。20メートルのロング巻き寿司づくりは恒例行事となっている。



⑥ ラジオ体操と「朝型社会の復権」

子どもの姿勢の改善と地域の方に運動習慣を身につけてもらうため、週明けに行われる全校朝礼の時に地域の方と一緒にラジオ体操を実施している。地域の方に子どもたちの学校生活を見てもらうと共に、健康づくりの機会になっている。



4 取り組みの成果と課題

(1) 成果

- ①地域の方が主体的に参加する行事となってきた。また、PTCAの「C」意識が定着し、地域住民として子どもに関わっているという自覚を持ってもらうことができた。
- ②核家族化が進む中、家庭だけでなく地域全体で子どものしつけに関わる活動ができるようになった。
- ③学校行事がより地域とのふれあいを大切にしたものになっている。
- ④ラジオ体操後に「早朝会議」を持つ機会が増えた。地域の方が朝から動く姿を見せることで「朝型社会の復権」という新たな目標が生まれた。
- ⑤PTCA活動により、地域の教育力を目ざませ、それを学校の還元することができ、学校を核に「地域のつながり」が生まれつつある。

(2) 課題

今後は「朝型社会の復権」を学校・家庭・地域が連携した本格的な活動に展開できるように、計画づくりを早期に行い推進していく。

5 普及のポイント

- 広報誌の発行回数を増やすこと（年間12回）により地域へタイムリーに学校の状態を伝える。
- 「夏まつり」の復活など、地域の方と直接つながる機会を増やす。
- 「C」の方々は開かれた学校づくり推進委員会を中心に、公民館長、民生児童委員、農業就労者、スポーツクラブ指導者、昔遊び指導者など、地域のいろいろな分野の方から広く構成されており、地域の特性・人材を生かした取り組みができています。

土佐町学校応援団

～地域全体で学校を支える仕組み作り～

1 学校や地域の状況

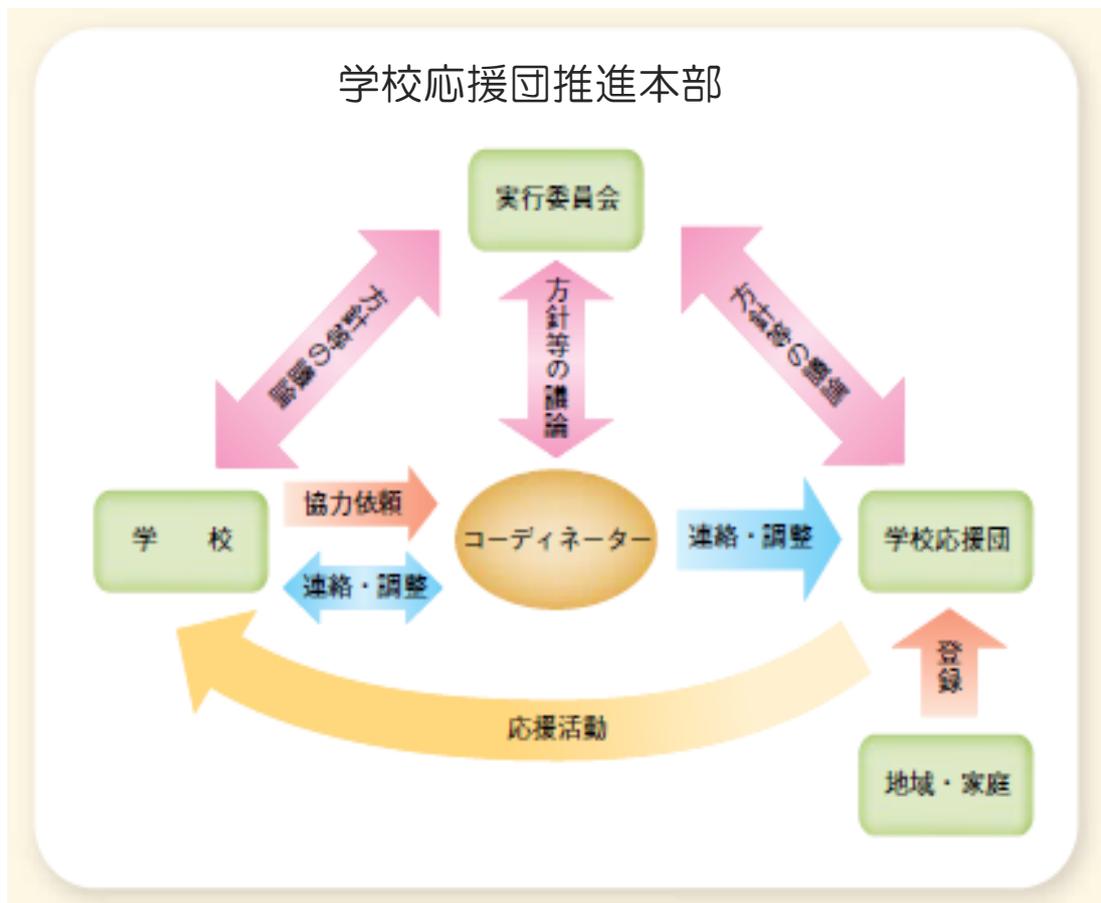
土佐町には小学校、中学校が1校ずつあり、各学校において地域の方の協力を得ながら学校運営や教育活動を行っている。地域ぐるみの子育てをさらに推進するため、「学校応援団推進本部」を組織し、教育委員会・学校・地域が連携して組織的に取り組んでいる。

2 取り組みのポイント

- 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。
- 取り組みを組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校応援を行う。
- 協働連携学習を推進する。
- できるときに、できる人が、できることを行う。

3 具体的な取り組み

(1) 組織図



(2) 活動内容

- ①学校敷地内の草引き、草刈り
- ②中学校部活動指導補助
- ③中学校選択授業講師
- ④学校行事への参加
- ⑤小学校山の学習講師
- ⑥放課後子ども教室で子どもたちと一緒に活動、見守り
 - ・自分で宿題をする習慣づけ
 - ・体験教室（水曜日）
 - レクリエーション教室（木工、絵手紙など）
 - マリンバ教室
 - 英会話教室
 - スポーツ教室



- ⑦図書館での本の整理
 - ・ 図書の補修や整理を行い、読書環境の整備



- ⑧救急救命講習
 - ・ 嶺北消防署救急救命士によるAEDの使い方を中心とした講習

- ⑨生涯学習学校
 - ・ 学校応援団登録者や地域住民が希望する内容の授業に入り、児童と一緒に学習する。

4 取り組みの成果と課題

- ①学校応援により、子どもたちの学習意欲の向上、コミュニケーション力の向上につながる。
- ②参加者自身が持っている知識や技術を生かせることができ、生きがいつくりになっている。
- ③学校教育と社会教育の双方向の学びのシステムを構築することにより、学校を拠点とした生涯学習の推進が図れる。
- ④教員が子どもと向き合う時間を今まで以上に確保することができる。
- ⑤放課後や学校休業日に子どもたちに様々な活動の場を提供することができる。
- ⑥子どもたちと接することにより、元気をもらうことができる。

5 普及のポイント

- 部落長会や各種団体の会で説明を行い、事業についての理解・協力を求めた。
- リーフレットや「学校応援団」だよりによる広報活動や、情報提供。
- 地域コーディネーターによる広報活動。